

『【報告】とある未解決事件について』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『【報告】とある未解決事件について』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『【報告】とある未解決事件について』を読んだことのある20代～50代の男女31名
調査期間	2026年1月14日～2026年1月15日 2026年1月29日 2026年2月28日 2026年3月28日 2026年4月25日 2026年6月13日 2026年7月11日 2026年8月8日 2026年9月12日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/houkoku-toarumikaiketuzikennituite/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 『【報告】とある未解決事件について』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

20代男性	2人
20代女性	0人
30代男性	2人
30代女性	3人
40代男性	0人
40代女性	8人

50代男性	16人
50代女性	0人

Q2:『【報告】とある未解決事件について』の感想を教えてください。

『【報告】とある未解決事件について』1巻	怜の洞察力には感服しました。充士郎が浮かない顔をしているというだけで、そこまで変な動画ではありません。だからこそ、刑事達も見落としていたのでしょう。それにもかかわらず、怜は事件の手がかりを掴んだのですから、本当にすごいです。事件の真相に一步近づいた二人ですが、同時に強い不安も感じました。真犯人が誰であれ、越永家の人々が惨殺されたのは事実です。そんな相手に近づけば、当然危険も増すでしょう。警察でもない一般人が踏み込んではいけない領域なのではないかと感じました。
『【報告】とある未解決事件について』1巻	読み始めてすぐに「変な家」等で有名な、雨穴さんの作品に似ているなど感じて、すんなりとストーリーに入り込めて面白かったです。楽しそうな割には、同じ画角の映像しかないホームビデオだったり、明らかに異様でおかしな写真など、初っ端から不穏な空気が漂っているけれど、アイコの存在が判明した時に、恐ろしい真実が待っていそう。
『【報告】とある未解決事件について』1巻	記者としてパツとした成果を出せないまま、最後のチャンスとして取材してくるよう言われた一家惨殺事件の現場で、家主の妹と偶然出会い、遺された物をチェックしていくうちに、写真や動画に映る息子の表情の違和感に気づき、愛子先生が犯人かもしれないと導き出されていくところにドキドキしました。一人で真相を探る予定が、妹の証言からジワジワと真実に近づき始めるところがよかったです。
『【報告】とある未解決事件について』1巻	主人公の栗栖怜は名前も髪型も顔立ちも中性的で、男性にも女性にも見えるので、読者が男女どちらでも自身と重ねやすく、読みやすいと感じました。また、10年前に起きた未解決事件にはミステリアスな部分が多く、真相がまったく読めなくて面白いです。この先どんな事実が判明していくのか、ワクワクしました。さらに絵柄がキレイな点も高ポイントです。
『【報告】とある未解決事件について』2巻	愛子が宗一郎との不倫関係を認めたことに驚きました。不倫関係のもつれが事件の原因だったというのはよくある話です。普通は疑われないようにするため、不倫関係であったとしても認めないものではないでしょうか。愛子があっさり認めてしまった為、逆に何かあるのではと気になりました。気になったのはラストシーンです。相対した人物が犯人だとしたら、怜は非常にヤバイ状況と言えるでしょう。怜がどのように対応するのか注目したいです。
『【報告】とある未解決事件について』2巻	1巻の時点ではとても怪しい存在として描かれていた家庭教師の愛子先生ですが、一体どんな女性なんだろうとアレコレ想像をふくらませていたら、まさかの宗一郎との不倫疑惑が浮上して、非常に驚きましたし、宗一郎は良いお父さんに見えたのに・・・とショックを受けました。アリバイがあるとのことで犯人ではないようですが、もし不倫が惨劇を引き起こした原因だとしたら、潔白な身だとは言えないよなと感じました。
『【報告】とある未解決事件について』2巻	ダイイングメッセージとか遺言とか、推理物といえばメッセージ。こちらでは「アイコニキツイテ」というメッセージが出てきてミステリーファンとしてうれしくなりました。アイコとは愛子。家庭教師をしていた女性。関係ないわけないでしょう。アリバイがきちんとあるのが逆に怪しい。仲良さそうなのに実はこれほどまでドロドロした関係だったとは。
『【報告】とある未解決事件について』2巻	1巻の「アイコニキツイテ」という充士郎からのメッセージのおかげで、愛子先生に対しておぞましくて恐ろしい人物だというイメージを抱いていたので、あっさり本人と対面できたことにびっくりしました。さらに犯人ではないことまで早々に判明して、事件の真相にたどり着いたと思ったらまた遠ざかるという展開が、読んでいて飽きなくて面白いと思いました。
『【報告】とある未解決事件について』3巻	刑事顔負けの怜の洞察力には驚かされました。本職の刑事たちでさえ気づけなかったことを、怜は一瞬で見抜いたのです。並外れた洞察力と言わざるを得ません。実際、傍にいた江崎は何も気づいていませんでしたし、怜が次々と仕組みを暴いていく様子には感動しました。気になったのは栄仙です。屋敷を出るとき、彼は妙な表情をしていました。怜の前では変なところはありませんでしたが、何か引っかかるものがあるのでしょうか。怜たちに対して何か行動を起こすのではない

	かと気がかりです。
『【報告】とある未解決事件について』3巻	3巻では疑惑が宗一郎と愛子先生からすっかり沙月へと移り、沙月が充士郎にひどいことをしていたのではないかというまたしてもショッキングな要素が出てきて、10年前の越永家に充満していたのだろう闇の深さにゾッとしました。充士郎はどんな気持ちで過ごしていたのか、過ぎ去った日々のこととはいえ想像するだけで胸が痛みました。
『【報告】とある未解決事件について』3巻	部屋を調べることで、また新たな発見が出てくる巻。越永栄仙の登場で、一気に話のスケールも大きくなりました。やっぱり大手玩具メーカーの創業者となると、家庭内でおさまるような話ではなく、さらに闇の部分が気になるようになります。個人的には話のスケールが大きい方がこの手のお話は面白いと思うので、次に期待が持てます。でも一番は、やはり部屋がポイントでした。
『【報告】とある未解決事件について』3巻	事件が起きたのは10年前な上、一家全員が亡くなっているので、基本的には家の中に残されている手がかりを見つければ推理していく…という流れだと思っていたので、今回沙月の父親という新たな関係者が登場したうえ、沙月の父親の会社を宗一郎が継いだという屋ドラならどろどろとしたものがありそうな事実も判明して、一気に世界が広がった感じがしてがぜん面白くなりました。また、そんな立場で宗一郎は良く不倫できたなとも思いました。
『【報告】とある未解決事件について』4巻	怜たちがメッセージを読み取っていくシーンに高揚しました。Nに似た記号から、よくあそこまで解き明かされたものだと感心します。刑事達はまったく気づいていなかったわけですし、怜の推理力には驚かされました。一方、充士郎は不憫だったなって思います。助けて欲しいというメッセージをこれだけ必死に送っていたのに、大人は誰も気づいてくれなかったわけですから。誰にも気づいてもらえないと感じながらもメッセージを送り続ける彼の姿を思うと、胸が締めつけられました。
『【報告】とある未解決事件について』4巻	1巻に出てきた一見幸せそうな家族のビデオ映像には、きっと良く見れば何か不自然な点があるんだろうなと思っていたのですが、それが何かは全く予想がついていなかったもので、撮影している側の誰かがキーパーソンだと指摘された場面では、思わず「確かに！」と声をあげそうになりました。充士郎からのメッセージもまだまだ隠されていそうなので、今後どう謎を解いていくのか楽しみです。
『【報告】とある未解決事件について』4巻	仲良し一家に見えて実は父親は不倫中。それを妻は知っていて。そんな中で息子としては勉強どころじゃないですよ。母親によるひどい仕打ちもあるし。家庭の姿は外から見えないというけれど、事件が起こるにはやはり理由があるってことです。やはりキーとなるのはホームビデオ。確かに、3人映っているからといって3人なわけではない。
『【報告】とある未解決事件について』5巻	怜の推理力が凄いです。二階の間取りとカレンダーの天気配置図がほぼ一致した時、背筋がゾワゾワッとしました。こういった手掛かりを残す宗一郎も相当ですけど、これを見抜いた怜も常人ではないですね。
『【報告】とある未解決事件について』5巻	気になったのは、江崎が合流するシーンです。普通に挨拶をすればいいのに、何故か物陰から怜の様子を伺っていました。もしかすると、何等かの形で事件に関わっているのかもしれないね。
『【報告】とある未解決事件について』6巻	今回は事件の真相にかなり迫ることができたと感じています。特に、絵日記を読み進めていくシーンは衝撃的でした。充士郎に対して抱いていた違和感の謎が解けただけでなく、第四の人物がどのような人かまで特定できたのですから。
『【報告】とある未解決事件について』6巻	調査は順調に進んだものの、一方で危険な展開になりそうだという不安も感じました。第四の人物の存在が確定したあたりからでしょうか。事件の真相に近づくのは良いことですが、それを真犯人が黙って見過ごすはずがありません。この不安が的中しそうで、とても心配です。
『【報告】とある未解決事件について』7巻	栄仙はまだ何か隠しているように感じました。説明自体は筋が通っているように思えるのですが、どこか拭いきれない違和感があります。すべてを語り終えた後に怜を見つめたあの視線が、妙に引っかかりました。また、らんの行動にも疑問が残ります。らんが犯人であるのなら、あの場で怜を殺したのではないのでしょうか。警察もらんの存在には気づいていなかったようですし、そのまま事件は闇に葬られた可能性もあったはず。それにもかかわらず、らんは怜を殺さず、意味深な言葉を残して去りました。その行動には明確な意図があるように思えます。らんの真の狙いが何なのか、今後の展開から目が離せません。

『【報告】とある未解決事件について』7巻	らんの正体が判明して、物語が一気にクライマックスに行くのかと思いきや、さらに事件が迷宮入りしてしまいました。最初よりさらに複雑になっていて、考察のしがいがありますね。特に、今のところ怪しいのは栄仙ですが、あからさまに何が裏がある表情が描かれています。ただ、これはミスリードであり、犯人や重要人物は他にいるように思えます。これから、あと数人は新しい関係者が登場しそうです。
『【報告】とある未解決事件について』8巻	今回の事件は、非常に奥深い謎に包まれていると感じました。当初は、らんが事件解決の鍵を握る人物だと考えていましたが、それだけでは十分ではないようです。屋敷の中にいた人物の中に真犯人がいると思っていただけに、事件の解明にはまだ時間がかかりそうだと感じました。
『【報告】とある未解決事件について』8巻	気になるのは、506号室と越永家の人々との関連性です。一戸建てで隣同士であれば、親しくなる可能性もあるでしょう。しかし、いくら隣とはいえ、マンションの一住民とそこまで親密な関係になるとは考えにくいものです。果たして、本当に越永家と関係があるのでしょうか。そして、睦海とは一体何者なのか。今後の展開に注目したいところです。
『【報告】とある未解決事件について』9巻	非常にまずい展開になったと感じました。確かに、怜たちは事件解明につながる手掛かりを得ることに成功しています。しかし、現在の状況を考えて、もはや事件の真相を追っている場合ではありません。何よりも優先すべきは、自分たちの身の安全でしょう。実際、最後には火が放たれていました。まさに絶体絶命の窮地となっており、この危機を怜たちがどのように乗り越えるのか、今後の展開に注目したいです。
『【報告】とある未解決事件について』9巻	お婆さんの目的が気になります。睦海が帰ってくることを望んでいるなら、二人を始末する必要はないはずです。むしろ、二人と協力することで、より睦海が発見する確率が高くなるはずです。ということは、お婆さんの望みは睦海が帰って来ることではない可能性が高いです。それとも、何らかの方法で利用しようとしたけど、それに黒幕が気づいたのかもしれませんが。そのため、家を燃やしたのはお婆さんではないのではないのでしょうか。
『【報告】とある未解決事件について』10巻	怜たちが無事に助かって、本当に良かったです。もしあの場に編集長が駆けつけていなかったらと思うと、ぞっとしてしまいました。前回、お婆さんが火を点けたのではないと思っていたので、その点は予想通りでしたけど、それ以降は予想がが続きました。
『【報告】とある未解決事件について』10巻	今回の事件は想像以上に難解なものだと感じます。睦海の部屋に手掛かりがあったとしても、今回の出火によって失われました。事件解明に大きく近づけるはずだっただけに、この損失はあまりにも大きすぎます。さらに、怜たちを焼き殺してでも秘密を守ろうとする人物が存在することも明らかにになりました。手掛かりを失ったうえに、自らの命まで狙われる。極めて厳しい状況の中で、怜たちがどこまで事件の真相に迫ることができるのか注目したいです。
『【報告】とある未解決事件について』11巻	愛子の動機がわかってスッキリしました。いくら越永家に関わっていたとはいえ、10年も前の話です。監禁されたうえ、焼き殺されそうになってまで調査を続けることに、違和感を覚えていました。それだけに、愛子自身から事情を聞くことができて納得できました。
『【報告】とある未解決事件について』11巻	最後に発見したビデオが気になります。どう見ても、普通のビデオではありません。そこにはどんな映像が残されているのか、次の話が楽しみです。
『【報告】とある未解決事件について』12巻	怜がとうとう勝負に出たなと感じました。いくら事情があるとはいえ、誤字の多い記事を雑誌に乗せるのはライターとして致命的なことでしょう。実際、そのせいで玄司が苦勞していることから、それは伝わってきます。それでも怜は記事を掲載したんですね。何としてでも事件の犯人を暴いてやるという意気込みが感じられました。
『【報告】とある未解決事件について』12巻	怜の狙い通りに、事件の犯人はまんまとあぶりだされました。果たして、この人物は一体誰だったのか、その正体が非常に気になります。

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス
